

第1回市政モニターアンケート集計結果

高島市のシンボルの制定に関するアンケート

○アンケート期間:平成25年9月23日～平成25年10月15日

○アンケート回答者数:42人

Q1 あなたにとって、高島市はどんな「まち」になることを望んでおられますか。また、そうなることを望まれる理由もお聞かせください。

1	今、高島市に住所を構えておられる方の殆どは、高島市に住んでよかったと思われるでしょう。交通、商店街など多少の問題はあっても住みやすい点ではよしとすべきでしょう。なんといっても住みやすさがいちばんでしょう。
2	「財政力のある安心・安全で地域が支えあう高島」を目指す 今、どこの自治体も財政に乏しく本来したい、しなければならぬ様々な分野の事業が最低限しかできない予算規模となっており、その中でいかに自主・独立し地域に密着した、郷土にあった事業展開をしていくことが必要である。これは市だけでできることではなく、その地域に住まいする人々が協働して自助・共助が大切になってくる。そのためには市は、今以上に現状を一層知っていただくことが重要であるとともに、職員も地域の一人であることから、より率先して市民との架け橋になり知恵をしばらなければならない。今、新しい収入源が見込まれない以上、節減は言うまでもなく、いかに現計予算を効率的に使うかが課題である。そのためには地域住民の協力、支えが大切である。
3	たくさんの歴史的な財産や自然を生かし、より多くの観光客(海外・他府県)に訪れてもらえる「まち」になってほしい。 また、「びわいち」人気で週末には県内外を問わずたくさんの方がサイクリングに来られるので、そういった方が高島を通過するのではなく、せっかく高島に来たのだからと立ち止まってもらえるようになってほしい。
4	・豊かな自然の中で、人と人とお互いに思いやり・支え合えるまち。 ・高齢者が元気で生き生き自立して生活するまち。 ・若い世代が、希望(夢)をもち、子育てしやすいまち。 個人的には、次の考え方に賛同しています。 ・今森光彦さんの「里山(＝人と生き物とが共に暮らしている空間)」の考え方、「里山こそが、目指すべき未来の姿」という考え方。 ・「里山資本主義」という考え方。 高島市には、豊かな自然という何にも代えがたい宝物があります。人と自然は相対する存在ではなく、人は自然の中で生かされているという原点に立ち返り、この豊かな自然と共にどう生きるかということを実際に考える時だと思っています。 日本全体が少子高齢化に向かっています。特に、2025年の超高齢化現象は、これまでの高齢化が「速さ」の問題であったのに対し、2015年(ベビーブーム世代が前期高齢者に到達する年)以降は、高齢化率の「高さ」(＝高齢者数の多さ)が問題となっています。滋賀県内で、少子高齢化のトップを走る高島市(高齢化率は県内2番目、少子化は1番目)も同様に、「少子高齢化」とそれに寄って引き起こされる「限界集落」の激増は深刻な問題です。 生産者人口が減少するこれからを考えた時、「少子高齢化」をマイナス要因ではなく、プラス要因として前向きに捉え、「元気な高齢者を増やすこと」「高齢者の持つ知恵と経験を活かせるまち」を望みたいと思います。 もちろん、年齢性別等に関係なく、高島に住もうすべての人の個々の持てる力(能力)を発揮できるまちであるとは言ってもありません。

5	第1回研修会では、高島市を取り巻く課題として、人口の減少、少子高齢化、市財政の問題などの報告がありました。しかし、私たち住民はその認識は漠然と持っているだけで、身近な問題として捉えていないと思います。日々の仕事、生活に一生懸命でそこまで考えるゆとりがないのが現状でしょうか。しかし、一人ひとりを考えると、それは子供の笑顔のため、家族の幸せのため、自分の将来のため、みんな一生懸命に考え、働き、暮らしているのだと思います。その一人ひとりの思いは共通しています。 その共通した思いを結びつけ、まちづくりに生かせる有効な手立てはないのでしょうか？ 高島市はどんなまちになることを望んでいるか？ それは、高島市に暮らしていて安心して家族を守れるまちです。教育、医療、福祉、雇用など言い出せばきりがありませんが、市民の抱えている不安が少しでも解消され、安心して暮らせるまちになることを望みます。また、商工の振興したまち、住んでいて楽しくて活気のあるまちになることを望みます。
6	私は、若い頃には「変化は進化」ってそう思っていました。 変化無くして進化はありえないって、です。 ところが、歳を重ねるにつけ、今存在する良さを再認識し、それを守っていくことを良しとする考えに変わってきました。 ゆえに、この高島市に行政主導による大きな変化は望みません。 今、私が望むのは、市民が安心して暮らせる施策です。 へんてこな、降って湧いたようなサッカー場などではなくて、です。 安心して医療や、介護が受けられる手厚い支援の方がが必要です。 変に、進化などを追い求めないで、基礎的な行政の充実を望みます。
7	市民一人一人が生きがいや目標を持って日々を過ごせられるまちであって欲しい。なぜなら、市民が他人に頼らずに自立した生活を送るためには必要だからである。 生きがいや目標を持って毎日生活できるということは、明日への希望、活力がある状態であり、各人の社会におかれた役割、すなわち学業や仕事、家事といった、社会を正常に機能、維持させる活動を自ら進んで行う状態である。市民が進んで活動するので市の機能は活性化され、市の生産性が向上することになる。また、生きがいや目標があれば、常に自ずと健康でいようとするはずである。 市の財政縮小が見込まれる中、今後生活保護や介護福祉関係の予算も現状維持すら難しくなるだろう。このような市政の市民個人への負担を軽減するためには、補助金や介護など、誰にも頼らずとも市民が自立して生活できる環境を築き上げていかなければならない。そのためには、まず市民が生きがいや目標を持って日々生活できるまちでなければならない。
8	昨年9月、50年ぶりに湖国に帰郷を決め、高島市を終いの住処として、単身転居してきました。友人知人が一人もないこの安曇川町に参りました、その理由の第1は、20年来にわたり傾倒し、読み進めてきた「ほつまつたえ」の伝承の地であるからです。「ほつまつたえは」日本建国の歴史書であり、文学性豊かな記録文書です。 理由の第2は、自然と景観が素晴らしく、住民の皆さんの心がやさしく、子どもたちが先に挨拶をする教えの良さに感動したからです。 高島市が発展するために都市化を目指されて、人口増加を図られるのは高島市の価値を低下させることになります。今あるもの、現状を如何に高め、質の向上を図るかが、課題であると考えています。ここで生まれ、育ち、暮らされている住民が当たり前に行っていることが、どんなに素晴らしい市の資源であるかを知らなければならぬと思います。
9	住民が住んでいて満足感のある「まち」。 自らがいきいきと働き、それなりの収入もあって、家族や地域社会の人たちと良好なコミュニケーションが取れていれば、高島の地で生かされていることに感謝するはずである。それは住民の満足感につながり、観光客もそういう高島市民をみれば、満足するであろう。 それは、単に経済の活性化をして、収入を増やすことだけでは得られない。 心の豊かさを求める人たちにフィットした政策が望まれる。

10	「素朴で落ち着いたまち」を望んでいます。 今以上に大きな商業施設を増やさず、増やすならば既存の建物を工夫し利用するように。 なぜなら、現在日本各地では金太郎飴の如く似たりよったりの魅力のない町ばかりになっています。 ロードサイドばかりでなく観光地においても同じです。取って付けたようなレトロな街並みが出現してみたりと。私は、6年前引っ越してきて以来、この高島市のどこへ行っても、心から安らぎと落ち着きを覚えます。都市部では見られなくなった木造の建物が、圧倒的な緑と広い空の下に親切な人々と共に多く残っているからだと思います。 もはやこの国では貴重となった、現在の高島市の環境(人的環境)や景観こそが、次代へ残してゆくべき高島市の魅力と思うからです。
11	今、高島市は「少子・高齢化」にあり、なぜそうなのかの意味を計画にせず、管理職職員層の方々が会合などのあいさつに、この5文字を使用されていることを少々遺憾に存じます。 さて、私は、この5文字の中の「少子化」の裏に潜んでいるものを解明することによって、高島市の未来像(将来の姿)を訴えます。 つまり、「少子化」は、当然のことながら、市内男女(市内、県内でなくてもよいが)の結婚をする数が、男女が存在するにもかかわらず、少ないことを指摘します。この場合、特に男子に注目し、高島市または大津市などで定職につきたくても付けられない男子が高島市に100人～150人存在することです。で、まず、将来(できれば今)「若者が定職を持てる町」にしたいと思います。 その理由は、前述したとおりです。もう少しつけ足せば、若者にさえ定職があれば、お金が入り、結婚もでき、子供もできて高島市は活性化します。市役所の管理職の方々、どうか20歳代～30歳代の若者に仕事を持てるようにご尽力ください。
12	人と自然を大切にしたい「まち」 14年前、大阪、京都を経て自然豊かさにほれ込み、知人も親せきもないこの町を選んで移り住んできました。子育て環境は最高だと思います。 農業や畜産も身近で、人同志の温かいつながりがあり、とても暮らしやすいと思っています。 何でも効率が良く、便利になればいいというものではないと思うので、少し不便なくらいがちょうどいい。 けれど若い人はエネルギーもあり、都会に向いてしまうのもわかります。JRをもっと利用しやすく、風や雪で陸の孤島となることだけはしっかりと避ける対策をお願いします。
13	人口が減少している中、やはり働きやすい地域、環境を整え、若者が市外へ出ても帰ってきたくなくなる地域づくりを出来るまちにしていきたいと思います。
14	1 どんな「まち」→全国に市の存在を認知してもらうこと (1)抽象的には - a 活気があり、明るい雰囲気「まち」 - b 魅力があり、誇りを持てる「まち」 - c 他市町村に自慢できる「まち」 - d 現在・将来に不安の無い「まち」 特に災害対応 - e 交流頻度の高い「まち」 (2)活性化には ・ 文化、スポーツを通じ、より多くの人々が接する機会を作る ・ 市内、各町村自治会の交流により隔たりをなくす ・ 常時、人、物が動いている状態であること 2 理由:かつて昔、「近江の国」(滋賀県)として全国から認知されていたと考える「近江の国」湖西地域を再認識してもらう時であると思う (1)具体的には(知名度の高い高島にするために) - a 全国的イベントの継続した開催(文化、スポーツ、その他事業) - b 観光事業を盛んにする 又、市内に新しい観光スポットを設ける 例 ヒガンバナ群生地、十五夜月の湖畔からの撮影会としてPR - c 湖西地域の特産物の全国への売り込み奨励 - d 学校、専門校、大型企業の誘致 - e 自衛隊の増員 定住者の確保

	※若年層の市外移住阻止、人口増加、多数の来訪者により経済効果アップ 全国への発信、ややPR不足(流行のブログ、ツイッター、ネット、メールの活用) 湖西地域特性(考慮事項) 1 冬期気象＝降雪、多雨、強風→適切な対応策が必要 2 幹線道路の貧弱＝湖上移動の有効的活用、道路移動困難の解消
15	自然が豊かで便利さもあり、落ち着くような町を望みます。なぜなら、便利すぎて、交通がよくなり、京都や大阪のようになってしまうと、空気も悪くなるし、環境破壊にもなるし、騒音にもなるからです。ある程度自然があり、ある程度の便利さであるほうがよいと思います。
16	現状維持でかまわないと思います。京阪神に通勤可能でこれだけ自然に恵まれ、商業地区も最低限の発展があり、食糧(農産物)の地域内自給率も高く、子育て世代には支援が手厚い場所はそうそうないのでとよく感じます。 高島が堅田、大津京あるいは敦賀のようになっては、独自性も魅力も何もない単なる「地方の小さな街」でしかなく、目指す方向ではないと思います。 人口や市産業の拡大ではなく、5～6万人規模の現状維持を少子化・高齢化の中で如何に達成し、高島市の資産(特に貨幣に換算できないもの)を保持していくかが、基本的方向性だと考えます。
17	福祉のことはよく聞きますが、自治会・組合のないところが多くある、その人たちの声も聞いてくれますか。 若者が永住したくなる、下水道・道路の整備をしっかりとっていただきたい。 最近良く土地を見に、宅の近くに若夫婦連れが来ます。若返りの「まち」にしませんか。 多くの人に「田舎」に住む、活気のある「まち」にしませんか。
18	若者が住みやすい町になれば良いと思います。 理由:若者や子育て世代が住みやすい「まち」になれば、人口の高齢化によるさまざまな問題を少しでも解消できると考えるため。高島市は子育て支援策は充実していると感じますが、若者が住みやすい「町」とは思えません。まず、若者が住みやすい「町」を作り、出会いの機会を増やすことが重要だと考えています。若者定住政策もされていますが、本当に求められているニーズとはかみ合っていないと思います。
19	高島に住んでよかったといえるように「治山、治水」を第一に考えた災害に強いまちづくりが必要だと思います。 また老人が孤立することがないように老若男女が参加できる地域の催し物などを通して、みんなの絆を強め、顔見知りを多く作れるが大切だと思いますし、そのことが若い人、子供たちに各地域それぞれに大切にしたい自慢できる自然と歴史を伝承でき、このまちを大切に暖かく育む心掛けを育てること。またお互いを思いやることにつながると思います。
20	自然環境に恵まれ引き継がれてきた産業、農業。現存する歴史や文化、藤樹先生の教えによる人間性。高島市はすばらしくいいところだと思いますが、なかなか100%生かされていないように思います。今一度振り返り、このすばらしい事象を後世に伝え、住民の誰もが生き生き生活していると実感し、他から見ても感じてもらえるような「町」であってほしいと希望します。
21	若い人がたくさん働いて、子供をたくさん生み、活気ある「まち」を希望します。 新聞の“こんにちわ赤ちゃん”欄を見ても少子化のせいでほとんど子供が生まれていませんね。(広報も同じですね)子どもは宝ですので、若い人がたくさん子どもを産める環境を希望します。人口が増えたらJRの本数も増えて人の移動が多くなるのではないのでしょうか。とにかく活気です。
22	“自然が豊かでなおかつ都会とのアクセスが便利なまち” 高島市に生まれ育ち、学生のころは都会へ出て何年か暮らしましたが、やはり自分は田舎のほうがよくて帰ってきて就職しました。現在子供が大学生となり、自分と同じように都会で下宿をしています。昔と違って今は地元での就職も厳しく、地元以外で就職するかと思っています。昔に比べ電車の本数も増えましたが、まだまだ不便。結局地元を離れ都会で生活することでしょう。また、老後は田舎で暮らしたいと思う人も大勢いらっしゃると思いますが、若い世代、年老いても、ずっと同じ町で同じ家で住めたら一番幸せだと思います。そのために、交通の便がよいと若い人も住め、活気のあるまちになるのでは。

23	住んでみたい高島、魅力ある高島、行ってみたい高島市にしたい。 理由 ① アクセス、用地確保の問題などで大手企業誘致が難しい。そんな中で市外よりの移住、若者の定住を促進するには他より魅力ある高島にする必要がある。 ＜住んでみたい高島、魅力ある高島にするには＞ *ゆとりある住環境を確保するため高島市独自の都市計画政策をとる。 策1 住宅建築時建ぺい率(50%)、容積率(100%)の規制をし、隣家との間隔をあけ緑あるゆとりあるまちを、誰もが住みたく思う美しい街をつくる。 例:敷地50坪の場合 1階建坪25坪以内、合計建坪50坪以内 (湖西線唐崎駅、坂本駅周辺等の車窓から見える密集した住空間にたくない) 策2 高層集合住宅(マンション)建設時建設地域を規制する。 例:マンション建設許可地域はJR湖西線より300m以上山側とする。 湖南、湖東でのマンション建設用地確保が困難になりつつある今、残るは高島が注目されつつある。早急に高島市独自の都市計画を決める必要がある。(美しかった大津市におの浜は高層マンションが連立し、景観を破壊して大津の魅力がなくなった) 策3 ・若者の定住、定住促進に固定資産税の軽減(現在もあるようですが)などの政策を市外に広く広報する。 ・安全でゆとりのある子育てができるまち ・保育園の待機児童0を広く市外に広報する。 ・JR湖西線の暴風柵整備を延長し風による運休をなくす。 ・美しい高島になるように美化運動、ポイ捨てごみの厳罰化。 等高島に誇りを持ち、高島に住むことがステイタスになるまちにしたい。
24	「観光立市」「産業振興」の両面でバランスの取れた「まち」になることを望みます。 市が持続的な活性化を目指すには、恵まれた観光資源を生かし人々を呼び込む方法と、企業誘致による若者に雇用の場所の提供による人口減少に歯止めをかける政策が必須と思います。風光明媚な湖畔と魅力ある里山の活用、近江米、湖魚、椎茸、柿、いちじく、アドベリーの野菜や果樹など特産品の拡販で知名度を上げること、また発信力のある企業を誘致して雇用場所の拡大を図り、高島市全体の知名度をあげ、若者にも郷土愛をはぐくめ、高齢者には健康で元気に暮らせる町を望みます。
25	5町1村が産みの苦しみを超えて1つの市になったのだから、旧の町村の垣根を越えて高島市民としての自覚を一人ひとりが持つべきだと思います。
26	琵琶湖の源流に当たる高島は自然とおいしい食べ物にあふれた地であり、都会の人が来て癒されるヒーリングスポットとしてこれから重要な役割を果たしていくことと思います。そのためには、この地に住む人自らが、その価値を知り自信を持ってアピールしていく必要があると思います。 私は、大阪の地で育ったため、いつも自然にあこがれていました。そして高島に来て、滋賀県の中でも特に美しい地であると感じ、もっと多くの人々にこの美しい自然に触れ元気をもらってくれたらという思いがします。水と自然とおいしい食べ物を提供するとともに、その中でまちの人々の優しさの中でヒーリングされて元気を与えることのできるまちになっていけたらと思います。
27	誰もが住みやすい、活気のあるまち これからも、高島市に住んでいきたいと思うから
28	水や緑など自然豊かな環境の中で、大人も子供も充実した安心して過ごせるまちを望みます。高齢者施設や医療施設等を充実するだけでなく、隣人が思いやり、いたわりあえるまち。「今、そこに誰が、どうした？」とお互いが気付きあえるまち。大人が子どもを見守り、子供が大人(老人)をいたわりあうまち。そしてお父さん、お母さんが安心して働けるまち。そんな地域を各支所が把握している高島市を望んでいます。各地域には多くの特色ある自然豊かな資源があります。それを大いに活かし、高島市市章のように6町村が1つになった高島市を期待したい。

29	・ 東北の大震災、また9／16の高島の被害等地球の温暖化が与える影響は今まで通りとマニュアル通りにいかない現状が浮き彫りにされました。災害に強いまちづくり、市民の地域力が見直されなければいけない。ますます重要性があるとは、だれもが思われるところだと思います。 ・ 今生まれた赤ちゃんが20歳を迎えられる頃の高島市は、働く世代と高齢者の比率が同じという。これも仮定で、高島市に働く環境が整っていればよいのですが・・・ 高齢者の健康寿命をいかに伸ばしていくか、また外資を得られる森林セラピーは安衛法の一部を改正（メンタルチェック法制化）に向けて新しい項目が追加の方向性とのこと。（2014年）通常国会で提出→可決の公算が高い もっと生かせると良いと思います。
30	今の自然を保ちつつ、若者が住みやすいまちであってほしい。 現状は豊かな自然を生かせていない。学業終了後の20代～30代が就職を理由に、他方、他県へ出て行ってしまう。 まちに活気がない。
31	自然に恵まれ、子供たちは伸び伸びと、働く世代は生き生きと、高齢者はのんびりと過ごせるまちになることを望んでいる。 ショッピングモールや大学などが存在すると地域活性化につながり、在住者も増え、福利厚生に手厚くできると思われる。 テーマパーク、例えばUSJなどの大きな遊園地ができれば、観光客の増加が期待できる。
32	自然もあり、歴史もあり、祭りもあり、いいところだと思うので、このまま残せるまち
33	1 安心して暮らせる「まち」になることを望みます。 2 上記を望む理由 (1)市民全員が明日に向かって「夢と希望」を持ち、日々の生活には「生きがい」を持てることを目指すため。 (2)経済活動の活性化を図る。（自然を大切に必要性から観光産業、福祉産業、継続的なイベントの開催等（彦根の鳥人間、佐賀の熱気球大会等は一例）を新しく企画実施し、県外、国外から集客を図る。） (3)各種災害に強く、犯罪のないまちづくり、市民の健康増進と医療介護の充実との調和を図りたいです。
34	交通の便が良く、四季折々に観光客が楽しめるまちになってほしいです。 理由は、今電車が1時間に1本しかなく、利用しようにもできないし、電車がない時間にバスが（遠い距離）走っていないので、ツアーでなく個人で来た観光の人や地元の方は、交通手段が歩きや自転車で、行きたい場所に行きにくく事故にも遭いやすくなり危険であるので、交通の便が良くなれば観光がしやすくなり、高島市のよいところを知ってもらえるからです。
35	山林に囲まれ、緑が多く、また湖もあり、大自然の中で私たちはその恩恵を受けて日々過ごしています。人々の心が温かく、犯罪の少ないまち。若者が安心して働けるようにするには、工場の誘致とか考えられます。 一方では、高齢者社会に向かって高齢者の意識の持ち方、現状の高島市で如何に安心安全に過ごせ、かつ、高齢者が生活できるか。 高齢者も甘えることなく、若者と共存しながら、自分の立場で生きる力を持続けて、高島市は自分の力で発展させるという意識を持つ。

36	人が心も豊かに生活できる「まち」 今ある自然環境を守りよりよく活用していきながらも、高島らしい自然環境や暮らしと共生した景色や風景を新たにも作って、経済や生活にも影響する魅力ある「まち」 少子高齢化や若者の流出による人口減少によってひき起こる様々な問題が将来の高島市にとって不安な材料として危惧されるように思います。人口減少をどうして食い止めるか、減少の速度を少しでも緩やかにできるかを課題として取り組む必要があると考えます。人口減少の原因に高島市で働くところの少なさが若者の流出につながっているように思います。新しいものづくりや製造業や市にない他の業種の企業進出が見込まれない中で、人口減少を減速させる新しい戦略も考えていかなければなりません。少しでも多くの人に住んでもらうには高島市の持っている自然環境を生かした取り組みを考え、強化もして、住んでもらう魅力を作っていくこと、住んでもらうためには便利さも必要になりますが魅力を作り出すことでカバーできないかと考えます。地域や市民の人にも喜ばれる事、活気の出る事などができれば、心の豊かさや利益までもと考えます。
37	固定観念にとらわれない自由なコミュニティがあるまち。 以前と違い、市外からの移住者が増え、今までのコミュニティのやり方が通用しなくなってきた。従って旧住民と新住民が互いに協力しながら、高島市のまちづくりを進める必要が出てきた。
38	市民が本当に住みやすいと感じられる「まちづくり」をしてほしいと感じています。私は大学卒業と同時に京都から高島へ移り住みましたが、高島市全体の土地柄として、新しいものや考え方に抵抗を示す感じが強いように感じます。ですが、こんな田舎だからこそ、新しい考え方をどんどん取り入れ、日本をリードするような市政を行ってほしいと思います。大阪市長の橋本さんが考えている「教育クーポン」のような今までなかった仕組みづくりこそ、全国から高島に目を向けてもらえる機会の創造ではないでしょうか。
39	・ 琵琶湖や山村を生かした観光地 ・ 子どもの住みやすい、育児に快適な町 ・ 高島市のよい環境を知ってもらって、この市に居住してもらう
40	同じ地域の住民として、お互いがお互いを気遣っていくことのできる「まち」になっていってほしいと考えています。
41	若者が増えて、さらに若者と高齢者の方々が一体となって、地域の行事などの活動を行っていくようになってほしい。 これまでのように、毎年祭りなどを開きたいから。
42	高島市が抱えている問題点を克服した街づくり。弱点を克服した街づくり。そんな観点から考えると、 ①子育て支援と良く言われるが、子供は日に日に成長して行き、手がかからなくなっていくが、高齢者は日に日に老いて行き、どんどん手が掛かる。そして、寝たきり、認知症になれば、何時までこの状況が続くのか？考えただけでも、真っ暗になる。そんな意味では、子育て支援より、老人を抱えている家族も、老人だけの家族も安心できる老後支援の充実した街づくりが必要だと思えます。 ②高島市内には、子供の数を全く認識していないのか、現実を全く見ていない、補助金だからできたであろうこども園等が多数あり、都市で言われている順番待ちのような状況はないし、私の経験から子育てと言っても、義務教育の中学校までと無償化になった高校までは、そんなに学費等はかかりませんが、大学となると桁違いの出費でした。ですから、子育て支援なら、そのあたりに重点を置いていただきたい。 ③働く世代の減少を食い止めるには＝増やす方法 例として、蒲生郡竜王町。アウトレットパークができて、あの賑わい、人の流れ、活気、雇用の創設、税収などなど、あらゆる面でプラスになっているでしょうし、特に若者の動きに変化があったのではと思うのですが。 じゃあ、高島市に置き換えたら？そのあたりの対策を考慮した街づくりができたならなあ。